

企業名： 朝日インテック

レポート名： 統合報告書 2022

## 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか→できる

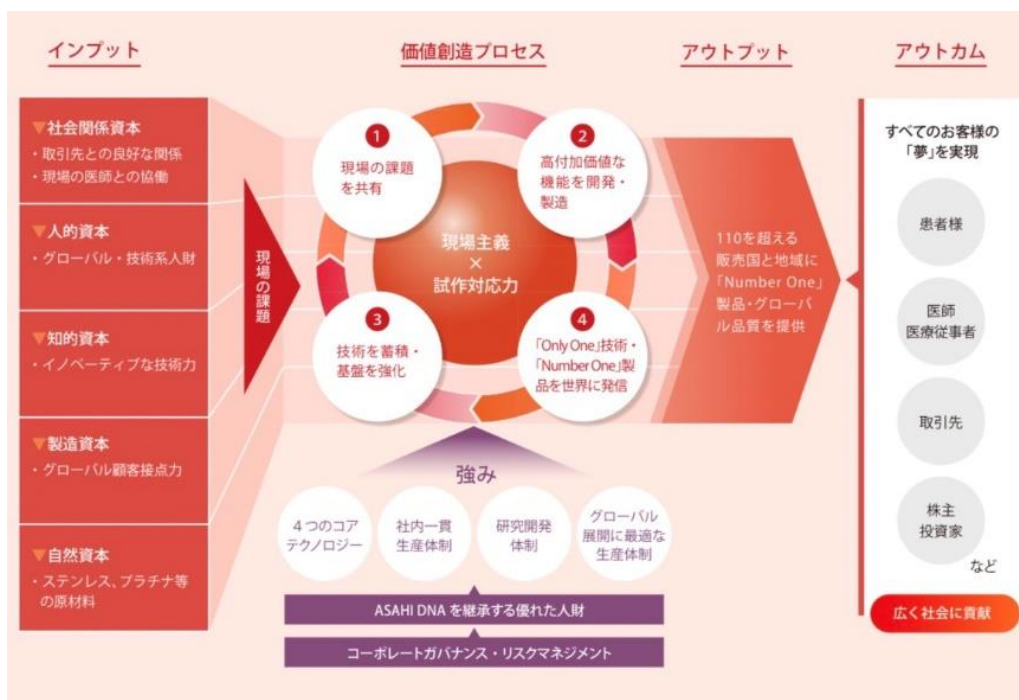
最初のページに社長の言葉として「医療機器分野・産業機器分野の課題解決に継続的に取り組み、サステナブル経営を実践し成果を上げていきます。」とかかれており、今後朝日インテックがどのように成長していくのかを簡潔に述べている。また、下の画像のように中期経営計画、基本方針が分かりやすくまとめられており朝日インテックがグローバル市場の開拓を目論んでいることがわかる。さらに「連結売上高 1000 億円」という数値であったり、日本、米国、欧州で市場戦略を変えることを説明していたりと具体的に説明されているため将来の姿が理解できると感じた。



## 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか→できる

画像を用いて価値の創造プロセスなどが分かりやすくまとめられていた。具体的には下の表に書かれているように朝日インテックは現場の声を大事にしているなどだ。現場の声を聞くことで新しいビジネスチャンスを創出することができると思われる。医療従事者や取引先は常に新しい製品やサービスを探しているため、彼らの声を聞くことで彼らのニーズに合った新しい製品やサービスを開発することができるだろう。この結果多くの競合他者との差別化を図ることができると思われる。また、朝日インテックは元々産業機器メーカーであり技術力がとても高いことが説明されていた。下の画像にも強みとして書かれているように「伸線技術」、「ワイヤーフォーミング技術」、「樹脂コーティング技術」、「トルク技術」の4つのコアテクノロジーは世界でもトップクラスの技術であり、当時は不可能だと言われていた CTO 治療用の PCI 治療用のガイドワイヤーの開発に成功した。この結果カテーテル治療の成功率は大幅に上昇し多くの人の命を救ったのだ。このように朝日インテックは「現場の声を聞く力」と「圧倒的な技術力」を武器に市場での優位性を確立し

ていると思われる。



そして統合報告書に記載されている下の財務諸表によれば2013年6月から2022年6月にかけて売上と営業利益が共に約4倍増加していることが分かる。これらは朝日インテックが市場での成功を収めていることを裏付けており競争優位性が高いことが理解できる。

### 8-1 財務サマリー

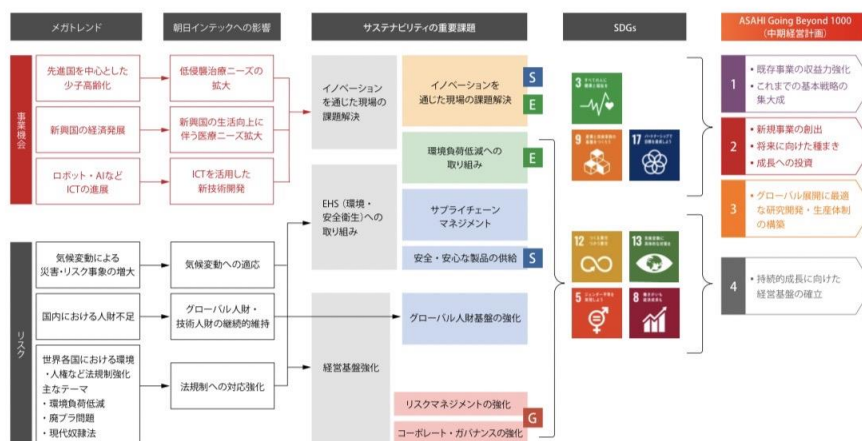
	17期 2013年6月期	18期 2014年6月期	19期 2015年6月期	20期 2016年6月期	21期 2017年6月期	22期 2018年6月期	23期 2019年6月期	24期 2020年6月期	25期 2021年6月期	26期 2022年6月期
売上高(百万円)	19,968	28,145	35,323	39,511	42,709	50,124	57,216	56,546	61,507	77,748
のれん償却額を除く営業利益(百万円)	4,403	6,047	8,034	10,904	10,797	13,774	15,317	12,595	12,944	16,893
EBITDA(百万円)	5,581	7,561	9,994	12,291	13,350	16,660	18,778	16,794	17,764	22,712
営業利益(百万円)	4,351	5,995	7,976	10,002	10,795	13,773	15,168	12,445	12,795	15,239
売上営業利益率(%)	21.8	21.3	22.6	25.3	25.3	27.5	26.5	22.0	20.8	19.6
経常利益(百万円)	4,802	6,099	8,399	9,521	10,941	13,740	14,833	12,310	13,196	16,326
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	3,004	4,360	5,828	6,907	7,725	10,042	11,237	9,178	9,984	10,857
包括利益(百万円)	5,288	4,392	7,940	4,126	9,490	10,623	11,335	9,251	10,753	17,297
総資産額(百万円)	36,587	42,967	51,049	50,286	63,246	72,104	84,358	93,729	115,427	155,127
純資産額(百万円)	21,924	25,736	32,592	32,263	44,059	53,599	65,450	71,975	92,938	121,130
総貸付資産(百万円)	3,027	2,390	3,784	3,836	5,169	8,183	9,702	11,261	11,764	8,933
減価償却費(百万円)	1,178	1,513	1,950	2,286	2,552	2,886	3,460	4,198	4,819	6,439
研究開発費(百万円)	1,954	2,714	3,230	3,886	4,496	5,052	6,036	6,579	7,524	8,869
1株当たり純資産額(円)	85.79	100.52	126.67	127.47	173.11	207.34	251.37	276.13	349.18	419.80
1株当たり当期純利益(円)	12.36	17.06	22.73	27.31	30.43	38.88	43.29	35.25	38.25	40.01
自己資本比率(%)	59.6	59.9	61.8	64.1	70.6	74.3	77.6	76.8	80.5	77.9
ROE(自己資本利益率)(%)	16.8	18.3	20.0	21.3	20.1	20.4	18.9	13.4	12.1	10.2
ROIC(投下資本利益率)(%)	-	-	-	-	-	-	20.0	13.5	11.7	10.9
株主収益率(%)	24.5	30.5	46.1	45.5	42.0	53.9	61.3	87.0	69.4	51.2
営業活動によるキャッシュフロー(百万円)	3,653	5,015	6,686	8,622	10,257	11,717	11,720	11,166	8,920	17,303
投資活動によるキャッシュフロー(百万円)	△2,837	△1,125	△3,249	△3,841	△5,268	△10,537	△10,849	△10,389	△16,327	△18,703
財務活動によるキャッシュフロー(百万円)	3,661	△2,920	△1,311	△4,552	1,598	△3,749	267	△809	10,110	11,908
現金および現金同等物の期末残高(百万円)	9,899	10,915	13,344	12,935	19,992	17,494	18,777	18,554	21,358	32,521
(参考)連結配当性向(%)	25.0	25.0	25.0	27.5	25.0	25.0	25.0	25.0	30.0	30.0
連結従業員数(人)	3,127	4,831	5,233	5,545	6,220	6,998	7,810	8,761	9,409	10,435

1. 2014年1月1日付、2015年6月1日付、2016年1月1日付、2017年7月1日付付、2018年1月1日付付において、普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っています。このため2013年6月期の数値に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益、営業活動によるキャッシュフローを算定しております。

2. ROE(自己資本利益率)は、以下の算式に基づき算定しております。  
 ROE(自己資本利益率) = 当期純利益 ÷ 自己資本 × 100(%)

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか→できるが不十分な点もある

理解できるが不十分な点もあると感じた。朝日インテックの統合報告書には「研究開発型企業である当社グループは、4つのコアテクノロジーを主体とした、高度で独自性の高い素材加工技術を備えております。また、これらの技術に加え、原材料から製品までの一貫生産体制を構築することにより、当社独自の素材及び機能を有した製品の開発・製造が可能となっております。これは、医療機器分野以外に、産業機器分野を有する当社グループならではの強みであり、医療機器分野での競合先とのコスト面・技術面における差別化を図る大きな要因となっております。」(統合報告書より引用)とあり、さらにこれからの事業展開についても触れられていた。また生産体制、研究開発の構築などについてもわかりやすくまとめられており競争優位性に持続性があると感じられた。さらに下の画像のようにリスク、および朝日インテックへの影響について書かれていたが、この画像と付随する説明では重要度に対して内容が抽象的すぎるためもっと具体的に書くべきであると感じた。



### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか→できると思う

統合報告書では人材マネジメントについても触れられている。これによれば朝日インテックは人事戦略について「強靱な経営基盤を確立するためのマネジメントリーダー人材の確保」、「新規事業を作り出していくためのイノベーターと、高度な技術と専門知識をもった人材の確保」、「多様な人材をリードできるグローバル人材の確保」の3つを重視している。これらを実現するために海外赴任する予定の社員や希望する社員に対して語学研修を実施したり、社員の自発性を高めるための「現場力向上プロジェクト」を行ったりしている。このように朝日インテックはインプットのみでなくアウトプットを含めたプロジェクトを積極的に進めることで社員の能力を向上させようとしている。

また、下の画像にあるように社員の残業時間を抑え、有給休暇を積極的に取らせるなどワ

ワークライフバランスへの取り組みを意識的に行ったり、女性の活躍推進を目指したりするなど時代の流れに逆らうことなく社員のクオリティオブライフを重視している点も良いと思った。

#### ■ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

	2020/6月期	2021/6月期	2022/6月期
月平均残業時間(時間)	23.5	23.5	24.3
有給休暇取得率(%)	66.0	65.3	69.2
フレックスタイム制度導入拠点数(拠点)	4	4	5
正社員の任意離職率(%)	3.7	3.0	5.6
男性の育児休暇取得率(%) <sup>※</sup>	—	—	20.7

対象範囲:国内正社員(単体)※2022年6月期より集計を開始しております。

#### ■女性社員比率・女性管理職比率

	2020/6月期	2021/6月期	2022/6月期
女性社員比率(%)	76.5	77.1	77.2
女性管理職比率(%)	32.2	32.5	33.9

対象範囲:当社グループ

## 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

難解な専門用語を使いすぎていなかったり、画像やグラフを使っていたりするなど統合報告書の内容がよりわかりやすく説明されていて良い。統合報告書は多くのステークホルダーが読むため複雑な文章や専門用語は避けわかりやすい言葉で説明することが重要である。また、統合報告書の内容がより客観的に評価できるように説明されているところも良いと思う。統合報告書は企業の価値創造プロセスをステークホルダーに伝えるものであるが主観的な意見や偏見が含まれていると、ステークホルダーは信頼することはできない。そのため投資家との対話を統合報告書に記載することにより客観的なデータや事実に基づいて説明できているところは良いと思った。しかし、全体として長すぎるという問題点がある。特に社長や投資家、社外取締役とのインタビューで104ページのうち20ページを占めている。重要な情報が多く入っているにも関わらず僅かな写真以外殆ど文章だけで構成されているため非常に読みにくいと感じた。統合報告書の社長インタビュー等は企業の価値創造プロセスをステークホルダーに伝えるために重要な役割を果たしているが、長すぎるとステークホルダーが読むのに時間がかかり読む気が失せてしまう可能性がある。これらの内容を改善するためには内容を簡潔にまとめ、対談形式に拘るのではなく他のページのようにグラフや表を用いてステークホルダーが理解しやすく、読みやすい統合報告書にすることが重要であると思う。

## 5. 参考文献

[朝日インテックグループ 統合報告書 2022【日本語版】\(asahi-intecc.co.jp\)](https://asahi-intecc.co.jp/)